

堺アーチェリー協会

昨年11月21日当会長 白倉仲助（発起人）先生の葬儀の際には、大阪府アーチェリー連盟 堺アーチェリー協会の方々 その他多数御焼香に参列していただき誠に有難う存じました。故会長も冥府で喜んでおられることと思いません。

昭和34年頃だったと思われませんが（弓もはっきり出廻っておらずヤマハの単板ストレーターの弓が出はじめておりました）月に一度練習会をしようとの声がかかり、当時あみだ池にあったヤマハ発動機の洋弓場で練習会をおこないました。

その後、大阪府立大学の原っぱで仮設の射場を作って頂き、千島先生（元府連会長）兵庫の小林先生も熱心に参加して下さって、30mで270～280点、時に290点を千島先生が出され皆がびっくりするやら、うらやましいやら。

この頃より弓もどんどん海外からも輸入、ヤマハもいろいろと研究して良い弓を製造し始めました。

昭和39年9月には第22回世界選手権ヘルシンキ大会に 大阪府立大学の末田 実 氏（現ヤマハ勤務）が参加し、好成績を収めてくれました。同氏は帰国後の10月には、第7回全日本アーチェリー選手権大会に於いても優勝。

しかし会員が少なく、時に府大で教室を持ったり、何とか普及に努力したり昭和40年はじめに府大校舎やグラウンドの整備が進み、白倉先生の肝入りでレンジが出来上り、学生も大いに喜び学生と共に協会員も参加しておおいに例会を楽しみました。

そのうち千島先生、小林先生は元の古巣へと。白倉先生がいろいろ考えて下さって、どうにか事務所も「ツヂカ運動具店」に依頼、兎に角会長は暇をみては練習に励んでおられた事が思い出されます。

こうして基礎が出来、例会も第4日曜日と決め、昭和60年までは何とか続けてきましたが府大もレンジの借用が難しくなり、時には他のレンジに行ったり、学生の定期戦や試合のない時には学生と共に例会を、長尾氏が大層苦勞をしておられる様子でした。

4・5年前に泉北に身障者の運動施設が出来たのを耳にし、早速長尾氏が交渉、

視覚障害者の教室などを開き、昨年（平成元年）よりファインブラザのクラブも創設、協会へも入って頂き、最近堺の協会はチョット賑やかになりました。

長年続けて会員の皆様も気心がわかり和気あいあいと楽しみ、時には京都の白梅フィールドや兵庫の六甲レンジまで遠出をして練習を行ったり・・・

故白倉会長の遺志を重んじ何とか会員の増えることを祈っております。

故白倉会長の冥福を祈りつつ。

平成2年3月吉日 武 山 秀